

○タイムスの日露

戦争批評 (十三)

タイムスの軍事記者が二月二十四日發行の紙上に於て論じたる所左の如し

日本の陸兵輸送

昨日の本紙に掲載したる我が威海衛通商領員よりの電報は露軍を敵へる戦線の儘に其一端を掲ぐるのみなるものに依りて瞥見したる道具立及び俳優の様子は頗る趣味に富むものにして又教訓を含むものと多し

茲に一事の記憶せざるべからざるあり八月の夜仁川に到達し同港に於て其翌日露國軍艦を處分したる瓜生提督の巡洋艦隊は四箇大隊より成る陸兵の前衛隊を伴ひ行きたるものと是なり此の前衛隊は京城か又は其附近に既に駐屯し居たる日本兵に投合して約四五千人の一小軍隊を作り以て露國の首府を占領し又之を威嚇し且つ人口の中心部にして又露軍の機軸たる京城の地に秩序を維持し又之が安寧を確保したり此敵愾にして且つ大膽なる行動は幸にして其効を奏し同時に起りたる旅順日艦隊の不意撃は又一天を拂拭して此上の運動を行はんとするに其必要なる安寧を把持せ

しめたり日本が旅順口に於ける露軍の制遏するに至るまで其運送船を黃海の北部に發遣するよとを敢てせざりしは最も露軍なる行為にして余知り得る限りは依れば俄入軍隊第一部隊の大部分は初め之を釜山及び馬山浦に上陸せしめん計畫なりしも旅順口に於て獲られたる成功の明白なるに至りて即ち其揚陸地を變更し且つ此變更は敏活に實行され凡て形勢の一變より生じ来る便益は直に執つて以て棄せられたるが如し

其後の事實の示す所に據れば初めて仁川に上陸せしめられたる第十二師團は右前衛隊に隨ぎて直に之を同港に發するも亦敢て不可なりしに似たり斯くすれば即ち一週間ばかりの日子は之を節約し得たる筈なり然れども第一の魚形水雷艇射せられたる後約十二時間に満たずして既に露國艦隊の存餘無く消散したりと解するは如何に大膽なるものなりと雖も尚ほ之を爲すは能はず要するに軍隊輸送の行動は其立派始終貫徹果敢共に其宜しきを待たざるものなり我が通商領の隊名を擧ぐるは僅に第十二師團と近衛師團との二にしてタイムス展船の仁川を出發したる際既に同港に到着したるは唯だ第十二師團のみ但し通信員は附言して他の師團又將に至らんとすと云

へり思ふに運送船は其糧食の揚陸を行ひたる後直に他の糧食を取らんが爲め歸航するものならん

日本の第十二師團は小倉に其司令部を有して其兵は九州島の東北部より徵募する九州は即ち内海の西南方に横はる一隅なり此師團の一箇大隊は平時に於て京城守備隊の任に當り居たり此大隊の既に復して元の師團に合せられたるは疑を容れざる所なりとす第十二師團は二箇旅團に編成されたる第八、第九、第三十七、第三十八の歩兵四箇旅團、三箇大隊より成る騎兵一箇旅團、三十六門の砲を有する砲兵一箇旅團、工兵一箇大隊、輜重縱列、野戦電信、衛生隊等を以て組織する輜重縱列以下の組織は其設備凡て他の師團に異るものとなし日本一箇師團の給養力は之を見て一萬九千人と爲すべく其戰鬥力はサーベル、旋銃一萬四千挺、外に砲六門なりと認めて可なり然れども其各師團に屬する豫備旅團なるもの早晚その本隊に合せらるべきを以て其場合に於ては之が戰鬥力を以て二萬人なりと見るべし近衛師團に至りては敢て特別なる其徵兵地域を有せず一種の制度によりて全軍隊中より徵募するものなり此師團中には第一、第二、第三、第四の近衛歩兵四箇旅團を有す附屬部隊に關しては第十二師團と差異あるなし唯だ其

大

内

外に一箇の遠征隊を有するのみなりとす
第十師團轉地内には山嶺下開要隘あり
十二箇中隊より成る要隘兵一箇隊を備ふ
若し必要あるに至らば鴨綠江に備ふる露國の
軍艦に抗する爲め之より攻城砲隊を發するも
を得べし

全周に對する鴨綠江の一戰

三箇師團にして既に盡く其上陸を了したりと
せば百八門の大砲を有する五萬八千の日本兵
鴨綠江に向け其進發の途にあるものなりとす
べし然れども我が國備置の戦する所は砲兵中
少なくも其一部分は未だ岸に上らず事情に
して之を許すに於ては前鋒根拠地として鎮南
浦を占領するに至るべきを推測するに似たり
鎮南浦は大同嶺の内方平壤の河口にあり日清
戰争の際又日本兵の使用する所となりたるも
のなり而して今日の形勢は山嶺の下に第三第
五兩師團の鴨綠江方面に集中されたる彼の千
八百九十四年八月の形勢に酷似するもの
あり然れども我等は唯だ戰に氣置の一端をの
み示されたるに過ぎず日本必ず鴨綠江岸に
於ける敵の兵力を監視するものなるべく又
初戦勝利の功益を忘却するものにあらずべ
し思ふに他の師團の既に前上にあらず若しくは

揚陸中なるものあるべく北轉に於て試みらる
る打撃は人力の及ぶ限り其成算を確立するに
あらざれば決して之を下すとなかるべきなり
みの際露國海軍の麻痺し居れるは露國に取
て頗る悲しむべきからず日本は頗る總督の轉
を饒かんとし恰も露國海軍の存在せざるもの
の如くに其軍隊の北進するに從ひ又その根拠
地を北進せしめんとするに力も居れり日本は
先づ鎮南浦を占領し鴨綠江の交通線路を把握
したる後解氷の期を待ちて必ず安東を利用せ
んとするに至らん然る上は日本軍の交通線
路は陸に依るにあらざりて即ち海に依り陸
路を以て之が根拠に充つるものなりとす敗殘
の露國艦隊遂に其活氣を復し一時成功を博す
るものとありとするも陸路の存する限り日本は
何等の苦痛を之に感ずるとなかるべきなり
作戦の後期に至りて牛莊は又開却し難き一要
地たるべし解氷の後には之が利便に依らんとの
謀らるるは即ち必然なりとす然れども第一の
急務は鴨綠江岸に於ける露兵を處分するにあ
り其次は旅順口に迫り陸面より緊く之を包
圍して以て其後の作戦に此方面の干渉を受く
るものとせしむるを要す
我が通信員の據する所に據れば韓國東岸に於

ける日本兵の上陸は浦蘆新編艦隊の健全なる
限り敢て金でらるゝみとなかるべしと云ふ元
山は既に千八百九十四年に於て使用され
るものとあり今回と雖も運送船を離脱する艦船
の練合はさるべき以上用ひんと欲せば之を用
ふるを得べし然れども日本は鴨綠江に於ける
露國陣地の實力及び補給且つ之を占領し居
れる兵數を以て此方面より露國の進發を可
なりとし又必要とするや否やを知るべし日本
之を必要と認め居れるは未だ明白ならず通信
員の觀察は思ふに誤なきを得たるべし
鴨綠江に於ける露兵は今果して如何の行動を
執るに至るべきや是れ凡ての注意の集まる
居る問題なりとす此地に於て一たび勝利を得
ば其勝利は假令最後の勝敗に大なる影響を
與ふるものにあらずとす尙ほ其甚しく士氣
を鼓舞するに堪へたり然れども露國の兵數に
して我等の信を得るよりも露國の兵數に
略にして亦我等の信を得るよりも露國の兵數
るにあらざる限り露國の勝利は少なくとも疑
問ならざるべからず露國にして艦隊を離る
となく此地より退却せば其行動は露國新編艦
に現れたる其宣言と好く符合すべしと雖も一
打撃をすらし試みるものとなくして既に數週日の
間占據し居たる陣地より撤退せんものとす

に及ぼす其結果殆ど敗戦に等しきものあるべ
し尙ほ露兵たるもの戦ひつゝ退却して以て千
八百十二年初期の作戦を又茲に踏襲せんも
を欲するか其一たび激戦に遭遇するに至りた
る場合露兵は果して其活潑なる敵軍に對し之
が包圍する所となるを避くるに堪へたる熟練
と且つは運動力を有するや如何大に疑なき
能はず露兵の邊傍に撤退するは即ち亦牛莊及
び遼河下流より撤退するの例にして旅順口と
の交通は爲めに遮断され旅順口の守備隊は其
要塞内に蟄伏して孤立せざるべからざるに至
るべし是を以てか鴨綠江に於ける露兵の行動
は即ち以て其兵力と其計策の全般を驗するに
足るべきものにして來るべき二週日間の出來
事は即ち此役の戦術に關する概観を表はし來
るものなりとすべし

(此日の戦報未完)

○タイムスの日露

戦争批評 (十三の續き)

西比利亞鐵道の無力

ヨリテール ウォットヘンラット(獨逸軍車
週報)は例の如く細々しき事情を列挙し且つ
獨逸軍車批評家一流の精神を以て露國交通線
路の不安心にして且つ不十分なるものに關し
不深切にも今に至りて漸く此タイムスの取
破前記述述べたる所を反覆し且つ保證し居れ
り露國が斯く振き差し成らざる場合に陥るに
至らざりし前ウォットヘンラットにして斯の
如き假借なき批評を加へたりしならんは寧ろ
露國に取て深切なりしなるべし何となれば
英國批評家の之が結論に對するよりも聖彼得
堡は會に一層の注意を以て之に對したるべき
を以てなり純理的論究として之が數字を計
算したる後獨逸雜誌は即ち論結して曰く一日
七列車を發すべきものと一切の事情良好な
るに於ては絶東に於ける露國の兵數は二月十
日より四月四日に至る間即ち八週日の期間に
於て七萬五千の増員を行ふを得べし恰も
一日約千四百人とのに要する大行李を輸送
し得る割合なりと

の心を安撫せしむるに足らず然るに實際問題
の研究に對する真面目の說なりとして此計
算更に其價值を有せず一日七列車と云ふが如
きは到底望むべきなきものにわらずして假に之
を其半に見積まらば略ぼ實數に近きを得べし
其上最早や久しきを待たざるべき海面の閉塞
と且つは封鎖の宣言は一部として正當に完成
されたる箇所なき此鐵道に對し過重の負擔を
行はしむるに至るべきものと其再び茲に之を
反覆し餘かざるべからざる所なりと陸軍、
海軍、守備隊の軍需品乃至非戰鬥民の需要す
る所にして盡く之を合すれば著しき巨額に達
すべき此等一切の物品は從來海上よりして絶
東に於ける露人の許に輸送されたるものなり
此門戸にして既に一たび閉鎖されたる以上は
總督の命令として其の如き形勢に應ずべき
如何の準備をも未だ行はしめたるものと
無かりしを以て商人に亦其の日に應ずべき
要なる時落を作るの計畫更に存したるなく露
國は結局非常なる割合と且つ非常なる困難を
帯びたる恐慌に據すべきを疑はず

者は又氣候の備所となり稱して曰へり此延
若は恐るべし予は陸上露國司令部に達するに
は六週日乃至三箇月を要するに至るべきを豫
期す而も忠死の覺悟を有したる後ならざるべ
からず露國の交通線路は最早や懲りくとなり
海陸に於ける露國の設備にして露國政府の示
すが如き事實と數字とに一致し又露國を欺き
得たる彼等の報告と相一致するに於ては我等
は實に露國が武器を執つて海中に其一無敵な
る敵一を排倒し得るを見んものと期す然れど
も是迄續讀したりたる戰闘史の毎頁は一と
て露國の無力にして處置宜しきを得ず又經理
を誤れるの實を現さるるなり我等は之に對し
て轉り再び千八百七十八年の露國を見るの感
なき能はず當時露帝の愕然として其後學を離
まし官金を私盜するの其連累頗る多く有力
なる人名の亦之に關聯するあるを見て遂に之
が罪人の調査を停止したるの現状彷彿として
眼にあるが如し

然れども我等は反露を有せざる又萬全の推
理を試みんことを欲するが爲めは露國政府の
報告を以て其文面通り之を濫用すべしとし
て乃ち採用せざるべからず同時に我等は後の
クロバトキヤン自ら絶東に遊遊し準備よく
せりと宣言したる時に少くも露國の驕り居ら
ざりしことを思はざるべからず然かも日本た

大分
長崎